

縄南中通信



平成29年 3月 1日 発行
2016年度 第11号

「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」

東大阪市立縄手南中学校
校長 日比野功

縄手南(小中一貫)施設分離型義務教育学校(平成31年度開校予定)教育理念

「縄南道」による20才の成人式には

当たり前前の行動を当たり前前に実行できる人の育成

「鍛錬千日の行、勝負一瞬の行」

「縄南道」は「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」を磨き勝負する！

2か月前、新年を迎え3学期がスタートした今年最初の始業式・全校集会で、「6月に行った運動会の入場行進・ラジオ体操を、今やったらといたらできますか？」と問いかけました。6月には全校が運動会に向けて練習をし、何度かの繰り返しややり直し(修正)も行って創り上げました。今年度の場合は雨にもたたられ順延が続いた時、モチベーションを下げないように体育館で集会も持ちました。その6月の内容を実際に今やるとすればできるのかどうかという問いかけです。二つ返事で自信を持って「やれます。」と答えることができないとしたら、それは一体なぜなのかという問いかけです。6月の運動会から半年以上たった今、ラジオ体操の技術も間違いなく上達しているはずですし、「縄南道」という「人格形成」も積み重ねてきているはずですから、6月に出来たことは当然それ以上のレベルで出来なければなりません。「今やれますか？」と自信を持って答えることができないなら、日本一を目指す生徒達には気づいて欲しいので、こうした投げかけをしました。そして、2月22日(水)の1時間目に実際に合同体育として全校生徒による入場行進とラジオ体操を行いました。「なんでこんなことする必要あるのか。」「面倒くさいし寒い。」という低い意識ではなく、「よし、やってやろう。」「やってみせよう。」という高いモチベーションを期待しました。ただ、「6月にできたのだから今でもできるはずだ。」というほど簡単なものではありません。おそらく縄手南中学校の生徒なら練習すれば6月以上の質の高い演技ができるでしょう。また、「やり直し」が許されるならそれもできるでしょう。しかし今回は練習の時間ありませんし、やり直しのない一発勝負です。やる気を持てたのかどうか、自分のモチベーションをそうしたレベルに高めることができたのかどうか、やる意味をしっかりと理解して消化できたのかどうかといった「意識」に関する内容が問われる非常に難しい場面です。たったの1度も練習のない合同体育というハードルを乗り越えるためには、日頃の授業であったり、部活動であったり、いろいろな場面での質を常に高めていく必要があります。そしてその質を高めることにより、「今やってもできるのか？」という高いハードルを「できて当然」という低いハードルとし、自分自身の「意識」「行動」「習慣」の在り方を高める必要があります。そして「結果」につなげるというルーティーンを確立していくことが目標です。「日本一」を目指す縄手南中学校であるためには必要なプロセスです。結果、今回の合同体育の取り組みでは、一定の成果を生むことができました。生徒はなかなかよくがんばりました。日頃の集会でも見られるように、「当たり前」の意識やレベルがかなり高まっていると感じました。だからこそこの日の合同体育ができたということに繋がったのでしょうか。しかながら課題も見えました。それは、もしもう1度やり直すことができたなら、おそ

らく今回以上のことができたのではないかと察します。「よくできたが、まだまだできる。」生徒達は、「自分たちはもっとやれる。」ときっと思っているのではないかと察します。それには日頃の「意識」をさらに高め、「行動」の在り方をさらに高め、「習慣」をさらに高め、さらに高い「結果」へと繋げるよう研鑽しなければなりません。「やまびこ打線」と言われた徳島県池田高校をたったの部員11人で甲子園に率いた蔦監督が、「鍛錬千日の行、勝負一瞬の行」と話されていました。日々の積み重ねの大切さ、日々の練習の意識の在り方、そして意識の隙を突かれる一瞬の勝負の厳しさと怖さ等を伝えた言葉です。「日本一」を目ざすために「意識」を持って、一瞬、一秒の積み重ねを大切にして「縄南道」を磨きましょう。「勝因」とは「一生懸命」「ていねい」「ひたむき」であり、「敗因」とは「いい加減」「適当」「だいたい」です。「だいたいできた」は「勝因」ではなく、「だいたいにしかできなかった」という「敗因」であることを再度、肝に命じてください。「意識」に磨きをかければ今すぐ必ず誰にでも実行できる「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」を持って「縄南道」を磨き勝負に挑みましょう。

「今年の1年生も、さすがですね。」と言っていました。～1年生スキー林間より～

2月8日（水）～10日（金）、今年も白樺湖池の平ホテルに宿泊させていただき、ブランシュたかやまスキー場でスキー林間を実施しました。3日間で4クールのスキー講習を行いました。現地に到着し体育館で着替えと開校式を行い、その後、各班のスクールが実施されました。開校式後、「今年もさすがですね。」と1年生の行動に対してお褒めをいただき、宿泊先の池の平ホテルの支配人、女将さんからも「今年も楽しみでした。縄手南中の生徒さんは気持ちがいいです。」と重ねてお褒めをいただきました。昼食をいただいたレストラン“ポテト”でも、「毎年、お行儀がいいです。」と言って下さいました。お褒めをいただけたことは自信にしつつも、これぐらいで満足することなく多くの課題に取り組み、さらに「縄南道」の研鑽に取り組まなければならないと感じました。今後も「前進あるのみ！」です。

縄手南中の先輩、高原春季さん（バスケットボール女子日本代表U-18）から学びました。



高原先輩から学ぶ、そして高原先輩を応援する「縄南道集会」

2月20日（月）の全校集会に本校卒業生の高原春季さん（大阪薫英女学院高3年）をお招きしてお話を聞く機会を持ちました。高原さんは本校卒業生で、現在はバスケットボール女子U-18に選抜され、日本代表チームで活躍されています。在校生にとって身近な存在であるとともに、高いレベルに

挑戦されている先輩から学ぶことはたくさんあります。「どのような選手が伸びるのか。」という質問に対して、「どなたの指示、アドバイスも素直に聞くことができる選手だと思います。」と答えておられました。また、「コツコツと毎日の努力を積み重ねることが大切だと思います。」と、今後の自らの「2020年東京オリンピックを目ざしたい。」という目標にも照らし合わせて、後輩の在校生にメッセージを残して下さいました。縄手南中学校がこのタイミングで高原さんをお招きしたのは、中学生の時からプレーにおいて高い技術を持った高原さんが、部活だけをやればいいという学校生活ではなく、何事にも真面目に取り組まれていたこと、そして現在も日本代表U-18に選抜されても、変わらず素直な気持ちで取り組んでおられ、高い目標に向かって頑張っている先輩を応援し、高原さんから学べるものを得たいと思ったからです。先輩の高原さんから頂いたメッセージを心で大切に感じ、在校生も大きな夢の実現に向けてコツコツ努力を積み重ねて欲しいと思っています。